



アマチュアオーケストラ

新交響楽団 第252回演奏会

The New Symphony Orchestra — 252nd Concert

指揮 飯守泰次郎
IIMORI Taijiro, conductor

SMETANA Má Vlast

スメタナ：連作交響詩「わが祖国」

Bedřich SMETANA (1824-1884): Má Vlast (My homeland), 1874-79

1. ヴィシェフラド（高い城） Vyšehrad
2. ヴルタヴァ（モルダウ） Vltava (The Moldau)
3. シャールカ Šárka
4. ボヘミアの森と草原から Z českých luhů a hájů (From Bohemia's woods and fields)
5. ターボル Tábor
6. ブラニーク Blaník

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

13:00 開場

2021年1月17日 (日) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演

Sunday, January 17, 2021, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席：¥3,000 A席：¥2,000 (全席指定)

チケットのお申し込み：新交響楽団ホームページ <http://www.shinkyō.com/>

チケットのお申し込み・お問い合わせ：コンサートイメージ 03(3235)3777 *10:00 ~ 18:00 (日曜・祝日を除く)

・客席内でのソーシャル・ディスタンス確保のため、ご購入できるお座席を一部制限しております。

・感染予防及び公演当日の混雑緩和のため、チケットの事前予約・引き取り・購入をおすすめいたします。

*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください (予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyō.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

チェコの国民的作曲家スメタナ

今回のコンサートでは、チェコ国民音楽の祖として知られるスメタナの代表作、連作交響詩『わが祖国』を演奏します。中欧に位置するチェコの首都プラハは、歴史的な建物が残る美しい街並みで、多くのホールを有する音楽の都でもあります。毎年「プラハの春音楽祭」が開催され、オープニングはスメタナの命日である5月12日に『わが祖国』全曲が演奏されます。この音楽祭が始まったのは1946年、ドイツから解放され明るい希望に満ちた春を迎えた時です。長年自由と独立を求めてきたチェコの人々にとって『わが祖国』は大切な曲なのでしょう。

スメタナ(1824-1884)は幼少期よりピアノとヴァイオリンに親しみ、その後プラハで学びピアニストとして活動を始めます。チェコは当時オーストリア帝国の支配下にありましたが、1848年に起きたプラハ革命運動に参加し、愛国的な作品を書きました。ピアニストとして高く評価されず政治情勢にも失望し、スウェーデンのヨーテボリに移りピアニスト、指揮者として成功しますが、異国での滞在により民族的な自覚が高まったスメタナは、祖国で音楽家として進むことを決意してプラハに戻り、その後、チェコ国民オペラを上演する仮劇場(国立劇場完成までの仮劇場)の首席指揮者に就任、チェコの農村風景を描いた『売られた花嫁』など8つのオペラを作曲しました。

チェコの伝説、歴史、自然をテーマにした『わが祖国』

「ヴェジェフラド」は高い城という意味ですが、プラハの丘の城跡でチェコ人にとって歴史的シンボルです。かつて伝説の女帝リブシェが城を構えていたと言われ、神話の中の予言が表現されています。「ヴァルタヴァ」はモルダウとして有名な曲です。ヴァルタヴァ川はチェコ最長の川で、プラハ市街地を流れます。「シャールカ」はリブシェ亡き後に起こったとされる乙女戦争の伝説の物語。「ボヘミアの森と草原から」はチェコの田舎の美しい風景と人々の暮らしが表現されています。「ターボル」と「ブラニーク」は15世紀に起きたフス戦争(チェコの宗教改革派とカトリックとの戦争)の戦士を讃える曲です。

スメタナは晩年聴力を失い、『わが祖国』は失望と苦悩の中で作曲されました。チェコ音楽確立を目指し、単に民謡の引用でなく近代西洋音楽の手法で自国の文学や歴史を表現するという信念があったのでしょう。その音楽は今も私たちの心に響きます。どうぞお楽しみに!(H.O.)

ご来場いただくお客様へ(新型コロナウイルス感染症対策)

当日はご自宅で検温していただき、マスク着用にてご来場ください。37.5℃以上の発熱、咳・のどの痛み・倦怠感等の体調不良がある方、過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国・地域への訪問歴がある方は、ご来場をお控えください。

会場入り口でご来場の皆様の体温を測定いたします。会場内ではマスク着用し、咳エチケットやこまめな手洗い、手指消毒をお願いします。ほかの人との距離できるだけ空けるようにし、大きな声での会話はお控えください。

クローカーサービスとドリンクコーナーは休止していますのでご注意ください。また出演者への贈り物はお控えください。

体調不良等が認められる場合は、ご入場をお断りする場合があります。

あります。なお、体調に不安がありご来場をお控えいただく場合や、当日の検温の結果入場いただけない場合は、チケット代を払い戻します。

詳しくはホームページにて注意事項や公演の最新情報をご確認ください。これらのお願い事項につきましては、状況により変更になる場合がありますので、ご了承ください。

今後の演奏会予定

<第253回演奏会>

2021年4月18日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 寺岡 清高

<第254回演奏会>

2021年7月4日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 山下 一史

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志(1925-89)の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展(1976年にサントリー音楽賞を受賞)、ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ(山田一雄指揮、1979-90)、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏(石井眞木指揮、1993)、伊福部昭米寿記念演奏会(2002)、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演(高関健指揮、2004)、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演(飯守泰次郎指揮、2006)など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ~良いお席を安く~

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券(どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能)を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座:00130-0-28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail:shinky@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時~9時、東京芸術劇場(池袋)、クラシック・スペース☆100(大久保)他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。3ヶ月~1歳2,560円、2歳~6歳児2,160円。お申込み・お問合せ:HITOWA キャリアサポート株式会社わらべうた 電話0120-415-306(平日9:00~17:00、土日祝日休み)